

# [第 132 回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

令和 4年 11月

NPO法人高島藤樹会



- 日 時 令和 4年 12月 3日(土) 15時～17時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」  
テキスト 中江藤樹著・加藤盛一校註『鑑草』(岩波書店)p.183～(用意します)  
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)



本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

- 2022年11月5日(土)、安曇川公民館で第131回藤樹人間学塾を開きました。今回は大阪からの参加の方を入れて8名でした。

- テキスト  
中江藤樹著『鑑草』の第三巻の第6話～第8話。

## ■ あらすじ

第6話「嵩陽の杜昌の妻の柳氏は、嫉妬深い女であった。杜氏の家には金荊という召使の女がいて、杜昌がその金荊に髪をすかせていたので柳氏はひどく怒り、金荊の両手の指を1本ずつ切ってしまった。少し経ったときに  
狐が来て柳氏の両手の指を1本ずつ噛み切ってしまった。…」(以下略)

## ■ 配布資料

- (1) アルボムツ・スマナサーラ『怒らないこと』の一部
- (2) 青山俊薫・横田南嶺「今、ここ、自分を精いっぱい生きる」等々

## ■ 今日のポイント

- ◇ 嫉妬も怒り。他の良いところを認めたくない気持ち。怒りが生じると喜びを失う。世の中の破壊の原因は怒り
- ◇ 怒りをなくすには、感情を人格化しないように気を付けて、自分を客観視する
- ◇ 天地いっぱい生きられているご恩返しとして、精一杯のことをしよう
- ◇ 同事とは上からの目線ではなく同じ姿勢で自分の姿は消えて相手と一つになっていくこと

## ■ フリートーキング

- ◇ 「大洲の旅では、他の会員と寝食を共にしてより素晴らしさを知り親密になれた」
  - ◇ 「この旅は人間学塾の実践の場だと思った。コースの選定、大洲の人達の案内が良かった」
  - ◇ 「中国人と日本人では嫉妬の激しさが違うので驚いた」
  - ◇ 「日本人の農耕民族の良さが近年の個人主義の高まりによって壊されるのを危惧する」
  - ◇ 「自分を客観視することや同事は難しいが挑戦する意味があるし挑戦したい」
- 等の意見をいただきました。ありがとうございます。皆で学ぶと議論が深まります。

学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。